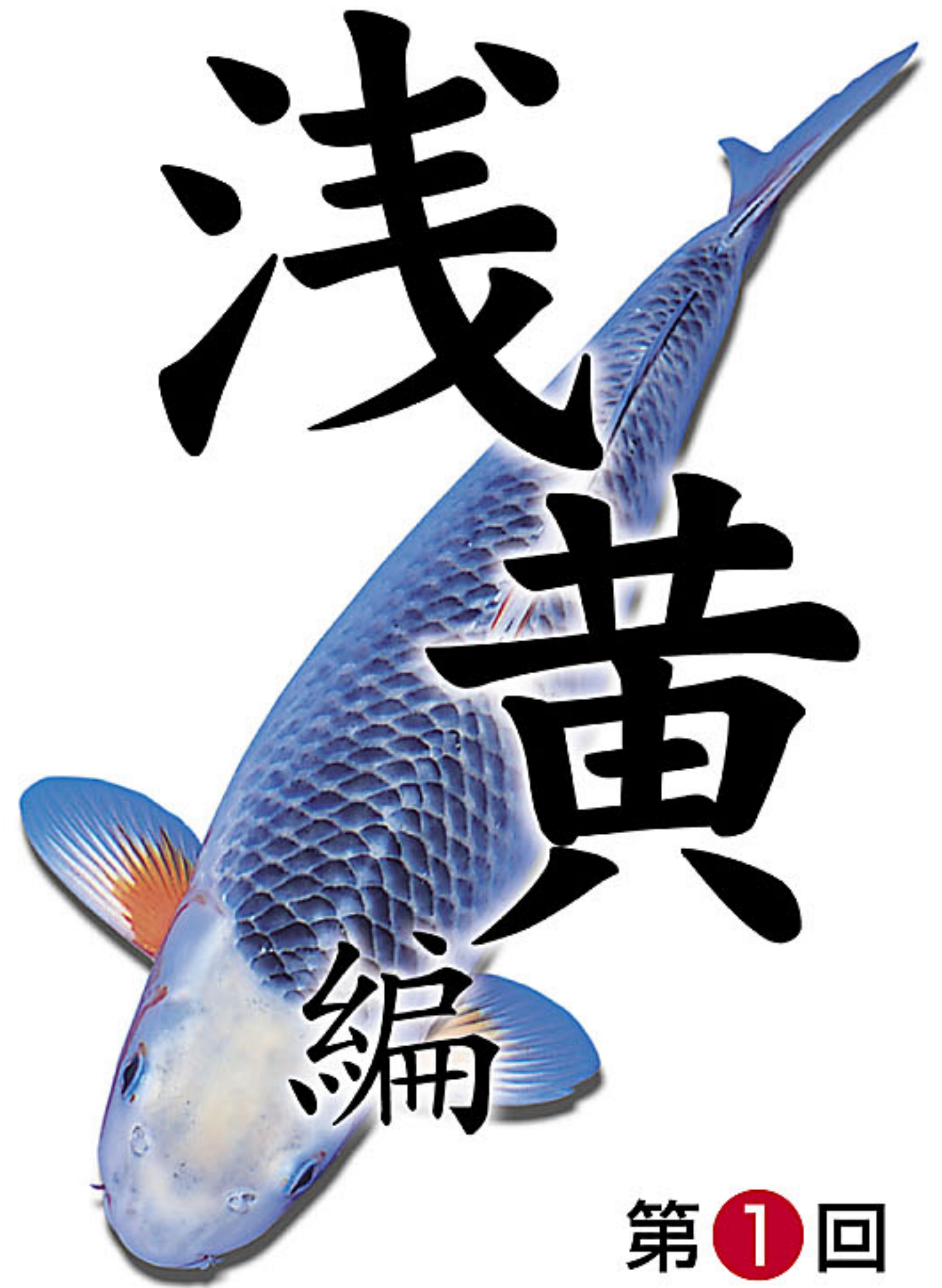




第1回

毎回人気を呼ぶ大菊拓朗氏（横浜鯉鯉）の鯉鯉セミナー。今回のテーマは『浅黄』です。昨年9月11日（日）、金沢産業振興センター（横浜市）で行われたそのもようをお送りします。

第1回目は、浅黄のルーツおよび細海浅黄、丸堂浅黄の仕上がり過程を見ていきます。



横浜鯉鯉代表・大菊拓朗氏

掛けて、今の秋翠ができたそうです。そういうルーツで鯉鯉の種類がだんだん広がっていったそうです。

頭は銀杏色が良い 4か所に入る緋がポイント

では、浅黄のおもしろさはどこで見えるのか、ご説明していききたいと思います。

こちらの写真（写真①）が、私が大枚をはたいて買ったら死んでしまった浅黄なんです（笑）。車を買おうと思っていたのにこの鯉を買ってしまった。1年で死んでしまいました。

浅黄は基本的には、頭の鉢が銀杏色……銀杏の殻のような色をしているのが一番黒くなくいいといわれています。

それから、鮮やかさを見せる緋模様ですね。地味といわれる浅黄ですが、「元赤」と、「頬の赤（奴緋）」と、「背赤」と、「尾の赤」がちょうどよく入っていると、派手で美しく見えるようになってきます。

これ（写真②）は卵から孵（かえ）って、40〜50日目くらいの浅黄の稚魚です。サイズでいうと5cmくらいです。これとこれは（①・②）同じ種類

鯉鯉最古の品種 発祥は三河地方？

今日は、鯉鯉の原点の浅黄について、スライドを見ながら、また皆さんに買っていたいて育てていただいた鯉の変化状況などを通して、勉強していききたいと思います。

浅黄は今から190年くらい前の資料に、鯉鯉の原種の一つとして取り上げられている、鯉鯉の中で一番古い種類であるといわれています。真鯉から鯉鯉が誕生したといわれる一番最初の変化が、この浅黄だったわけです。

では、浅黄はどういう真鯉から変

化したかということですが、真鯉には3種類あるといわれています。「鉄真鯉」「泥真鯉」「浅黄真鯉」という3系統があるそうです。その中の「浅黄真鯉」という種類が先祖になって、今のこうしたブルーの綺麗な浅黄が出来るようになったそうです。

浅黄真鯉とはどういう鯉かというと、背中が藍色で、その藍色の部分が網目状になっている、真鯉の中でも鱗の目が濃淡の出ているような真鯉だそうです。実物を3種類並べてみるとその違いは明らかだそうです。一般には真鯉というとなんか区別はされていないかもしれませ

ん。

浅黄だけは、原種が越後（新潟）ではなく、三河地方（愛知）の三州鯉という……よく時代劇で、江戸時代のお殿様が鯉に餌をやっているような場面で、少し汚らしい、真鯉のような浅黄のような鯉が出てくることがありますね。その三州鯉、または浅黄三色といわれているのがルーツではないかとされていますが、それも定かではありません。

しかし、そういうように越後ではなくて、三河地方でも食用として養殖されていた三州鯉が、起源である可能性が高いといわれています。

また、それを改良してドイツ鯉に

(浅黄) なのですが、普通の人が見ると「これが、どうやってこうなるんだろう」と、その差がわからないかもしれませんね。今日は浅黄の先生が大勢来ていますので(※1)、あとで聞いてみてください。

浅黄は、稚魚のうち白っぽくて、背中のところは紺色の筋が入っているような感じです。そして、頭のところは黒丹頂のように、蒙古斑みたいに出ています。これが浅黄の稚魚の特徴の一つです。

これがだんだん育っていくと、どのように変化していくかといえますと……これ(写真③)が浅黄の稚魚の群泳です。生後10カ月の姿になります。サイズが大きくなって15〜20cmぐらいになりますと、背筋から鱗

3列ぐらいに、コハダやコノシロのように少し色が出てきます。

(写真④) も少し成長した稚魚です。縹模様ができて、頭の芯の黒丸点だんだん拡散していきます。

となりが2才(写真⑤)です。そして、生後3年から5年ぐらい経ってきますと、網目が綺麗に出てきて、この鯉(①)のように完成という形になります。

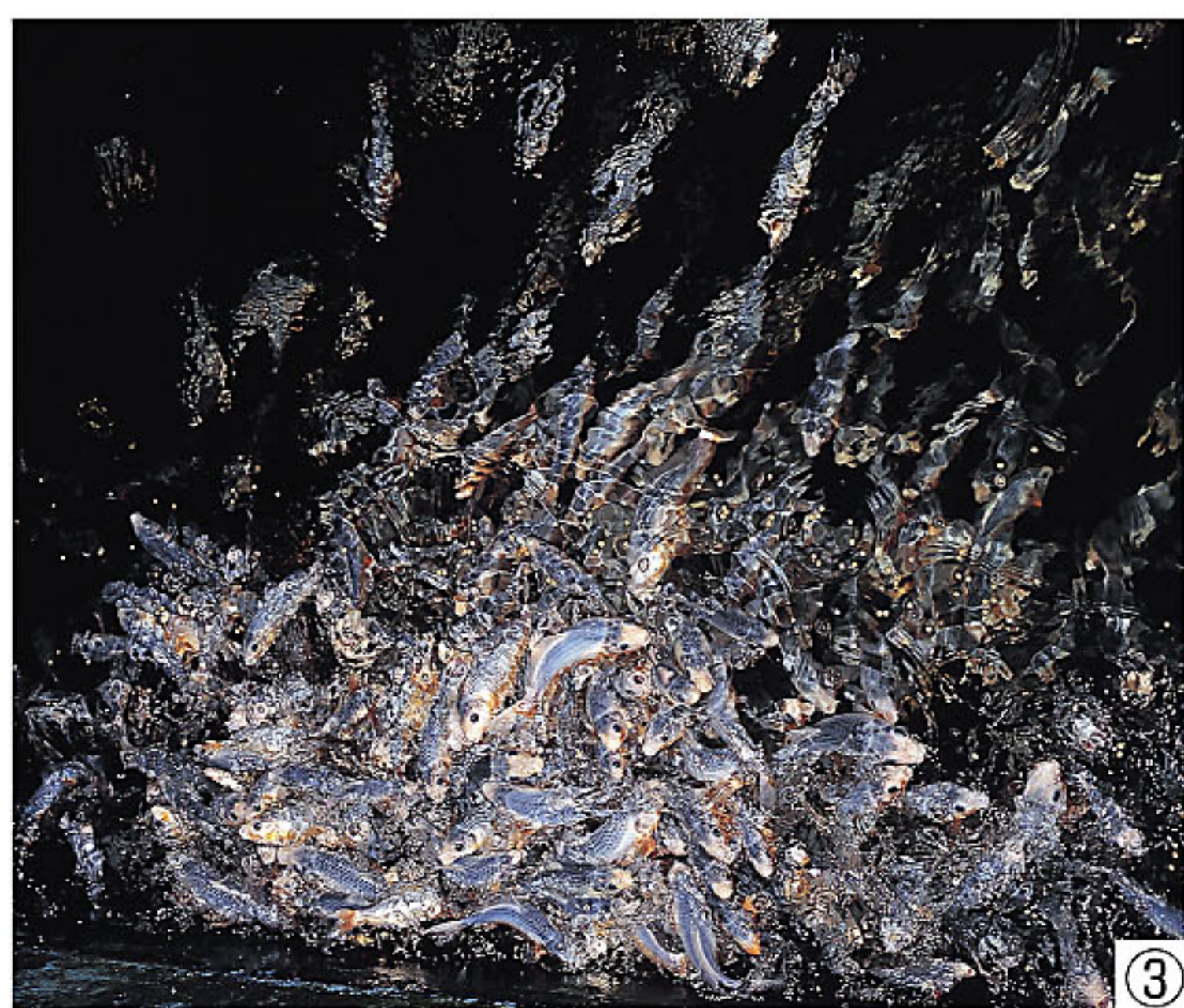
仕上がり過程をみる—— 干溝の浅黄

こちらは仕上がり過程です(写真⑥)。浅黄がどのように仕上がっていくかということで、同じ鯉の写真を見てみましょう。

この写真(⑥・A)が生後10カ月、



①



③



②



⑤



④

15cmぐらいです。これは新潟の小出の干溝(※2)の浅黄の当才です。これもさつき言ったように頭に蒙古斑のような黒みが少し残っています。小さいうちに見ていただくと、多くの方はこれがシミになるんじゃないかと思うかもしれませんが、これが1年経って2才になると(⑥・

B)、頭の黒みが拡散していくんです。そしてそのころに浅黄の網目がうっすらと出てくるようになります。

これがまた1年経つとどうなるかといえますと、3才になるとこういう姿になります(⑥・C)。頬のあたりの緋がだんだんと出てきて、見

※1 宮石養鯉場・宮賢太郎さん、大塚養鯉場・大塚嘉和さん、丸堂養鯉場・平澤利弘さんが来場。

※2 以前から浅黄の産地として知られる。

えない状態だった奴が両方に付いてきます。網目もかなりはつきりと出てきています。

注目したいのは背鰭の赤です。これは2才の時にはまったくないんですが、3才になると出てきます。元

赤のある当才や2才を探してもほとんどいないんですが、元赤に関してはあとから出てきます。

これ(⑥-①D)は、もう1年経つ

た姿です。この鯉は残念ながら、ここで少し緋が欠け始めています。3才の時にピークだったんですが、緋

が欠け始めると同時に背鰭の赤もなくなつて、尾の赤も沈んでなくなり

ました。浅黄というのは必ず緋が増えて赤松葉のようになるかというところ、そうでもなくて、こうやって緋が減る傾向の魚もいるようです。

仕上がり過程をみる 細海浅黄2態

浅黄といいますと、細海さん(小千谷市真人町「細海養鯉場」)が一つのブランドとして一世を風靡(ふうび)したので、今度は細海浅黄の変化の過程を見てみたいと思います(写真⑦)。

これは吉識さんの浅黄で、神奈川

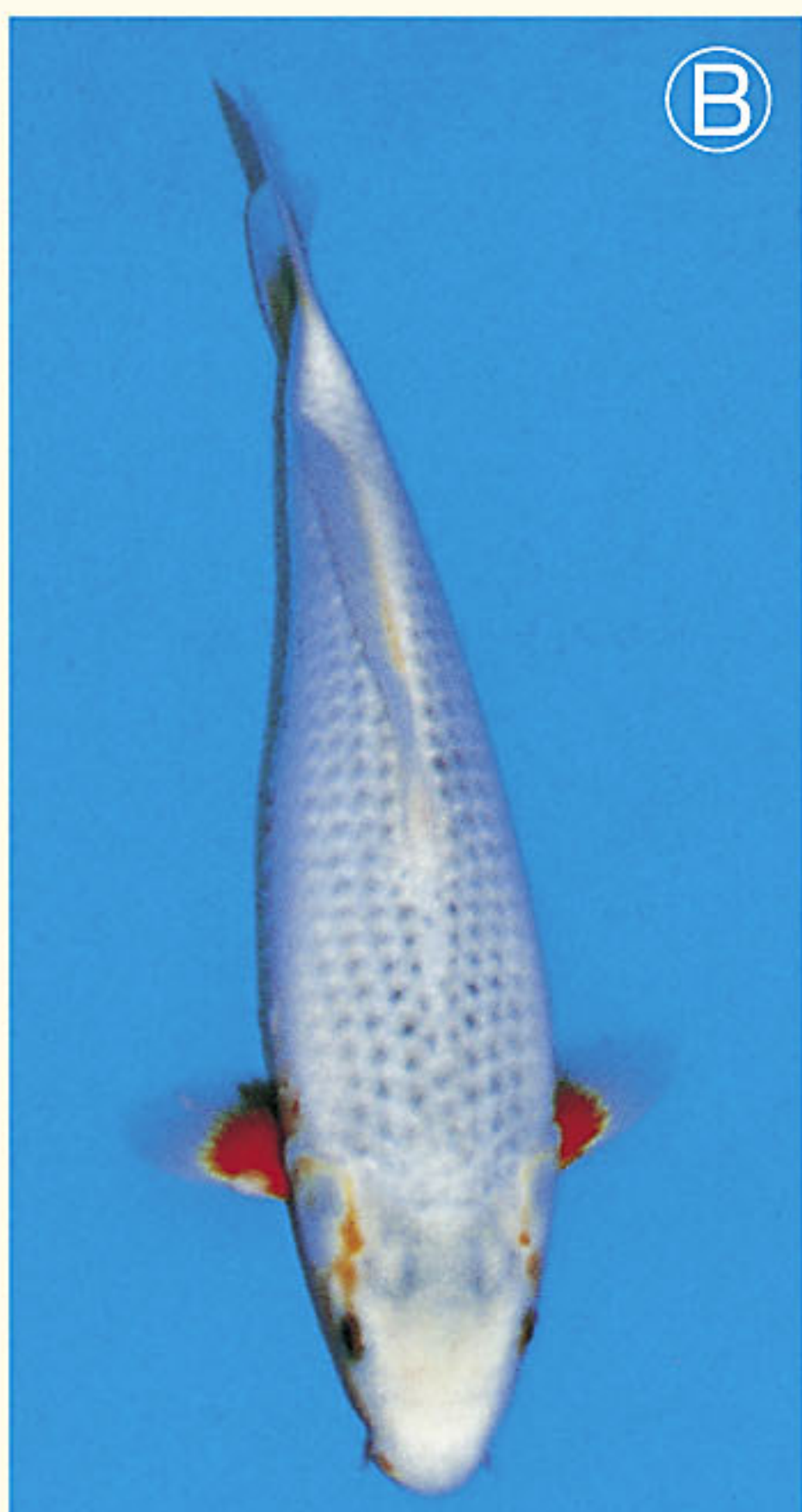
県の品評会で賞を取りました(⑦-1A)。この浅黄はあまり変化しなかったんですが、1年経った時の姿がこれ(写真⑦-1B)です。

網が少しボヤックとしていたのが、だんだんと網目のはつきりしてきた。色合いが綺麗になってきました。体型的にもボリウムが付いています。あとは頭の色ですが、銀杏色はかなりはつきりと出てきています。こういう浅黄が頭が黒くならないくい浅黄で、現在も黒くならず美しい状態です。

次も細海浅黄で、これは林さんがかつて持っておられた浅黄です(写真⑧)。これは「滝浅黄」と言つて、細海さんのところでも珍しい浅黄です。滝浅黄というのは鱗目が上から3列から4列くらいは出るんですが、その下が白になって、横から見ると滝が直線的に流れているような姿なので「滝浅黄」と呼ばれています。で、その白の下(腹側)にはもちろん「船底緋」があります。

この浅黄は当才の時に若鯉品評会の18部で優勝しました(⑧-1A)。これを林さんに求めていただきました。じつくりと育てていただいた姿がこちらです。これが2才です。

写真⑥
干溝の浅黄

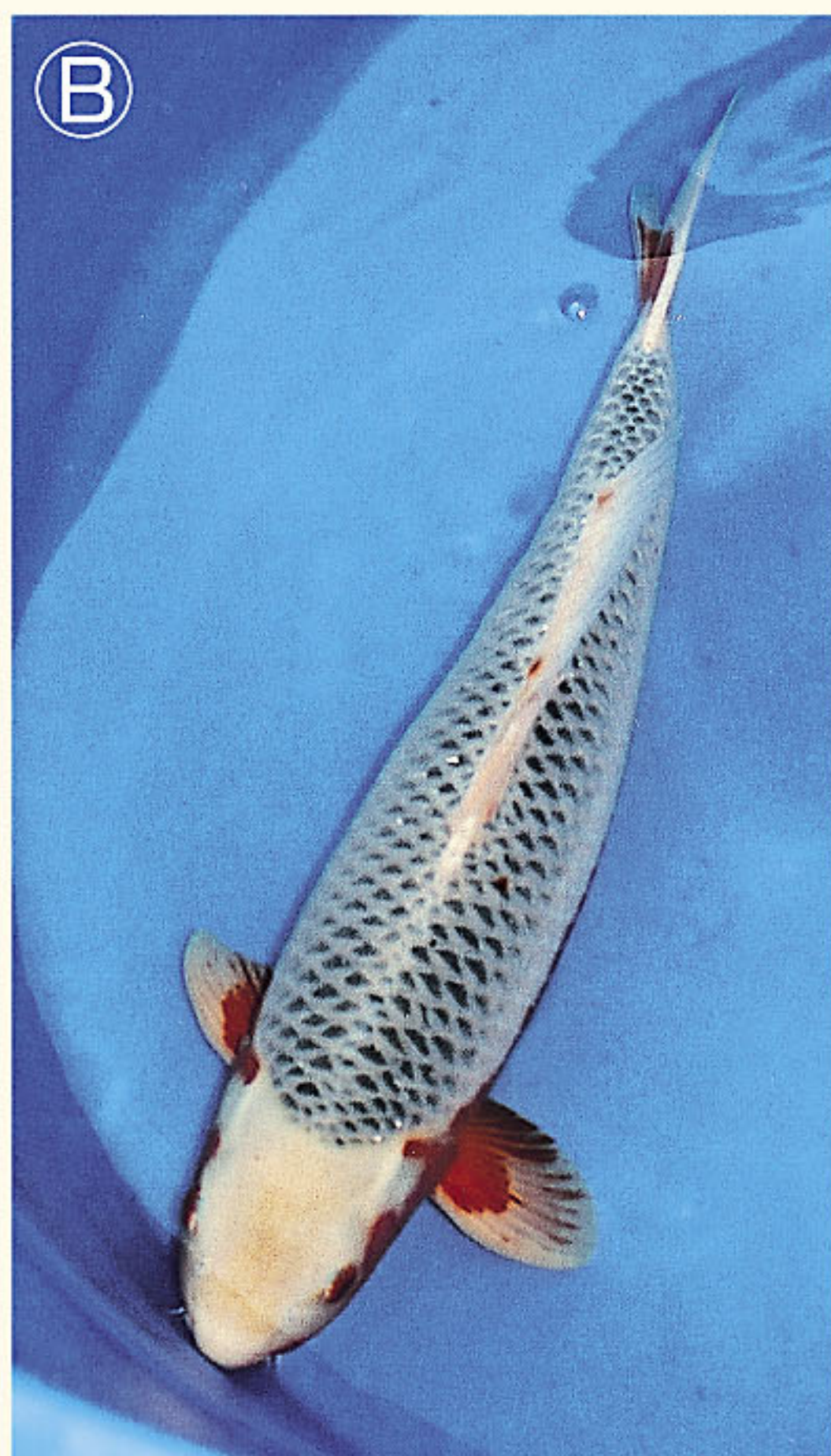




(8-I-B)。

すごくいいなと思うのは、持ち主の林さんも絶賛されていました。浅黄にない独特の明るい緋質が出たんです。浅黄の緋は、普通はレンガ色っぽくなりやすいんですが、これは透明感のある、浅黄では珍しいタイプの赤です。

通常、滝浅黄っぽい鯉でも、大きくなると横腹の白い部分に鱗目が出てきてしまって、ほとんど白いラインが消えてしまうんですが、これは綺麗に残って、滝浅黄らしい姿です。そして頭の黒ずみというか、蒙古斑のようなのも2才で綺麗に取れて、



写真⑦
細海浅黄

すっきりとした鯉になりました。

仕上がり過程をみる 丸堂浅黄3態

次は丸堂さん（小千谷市南荷頃※3「丸堂養鯉場」）の浅黄です（写真⑨）。これ（⑨-I-A）は80cmくらいで、中越地震の時に、利弘くんと久司さんが自分の命も顧みず助けてくれた浅黄です。オール関東で桜賞を取らせていただきました（80部）。丸堂さんのところの体型の良い浅黄の一つのお手本だと思います。

これが1年後の、80cmを超えた姿です（⑨-I-B）。鱗目もかなりはつきりして綺麗ですね。丸堂さんの特徴なんです、鱗の一つ一つの玉が大きくて、そして体の幅、顔の幅が出てくる、そういう感じの鯉です。大型浅黄を望まれる方には、丸堂さんの浅黄はいいんじゃないかなと思います。

次（写真⑩）も丸堂さんの浅黄ですが、先ほどの浅黄と同じ年の浅黄で兄弟鯉です。これも丸堂さんの浅黄の特徴である鱗の玉の大きさが出ていますね。体型的にも、浅黄としては珍しくボリューム感があります。これはこの年の鱗友会の品評会

で優勝しています（⑩-I-A）。

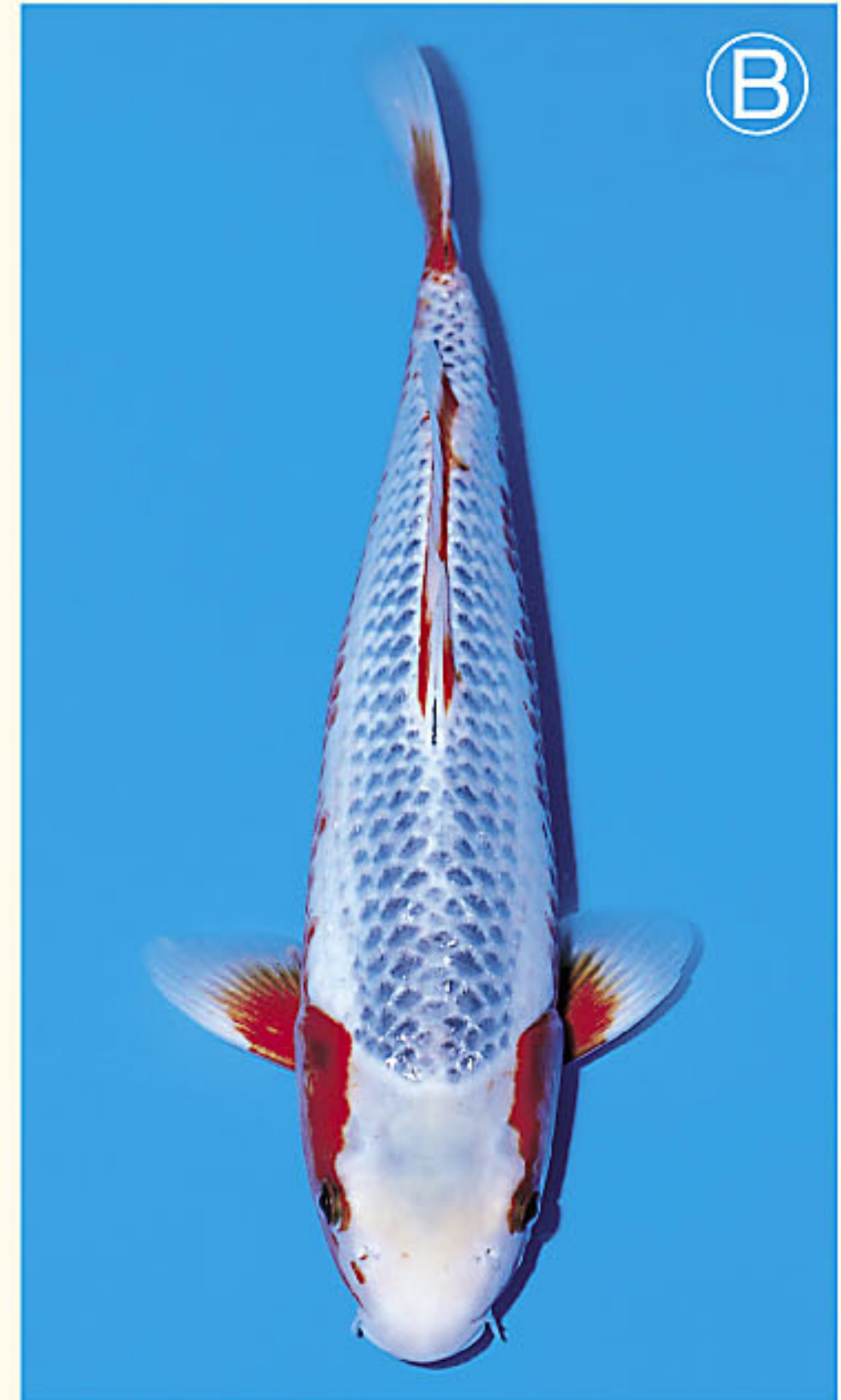
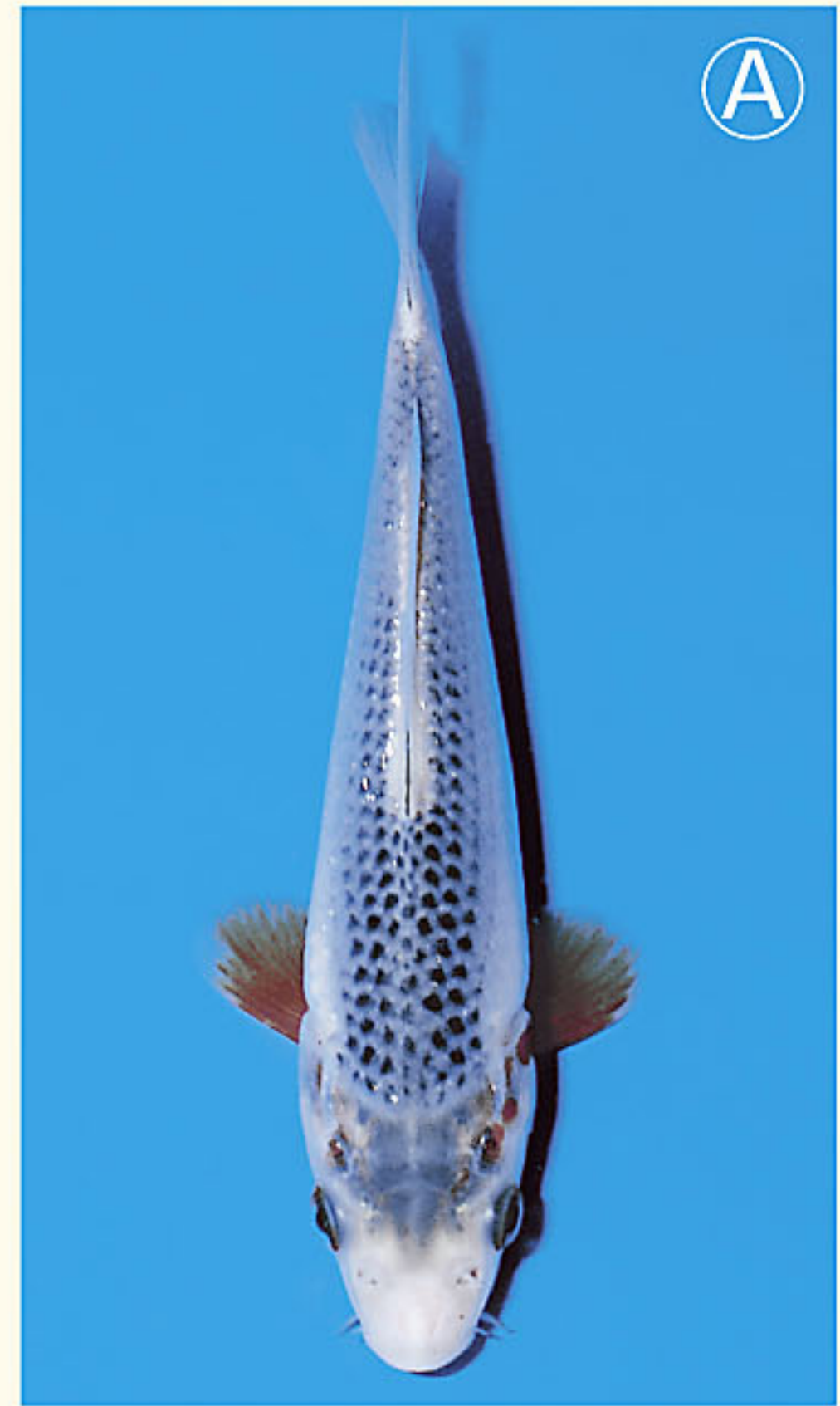
2年後に同じく鱗友会で種別大賞を取った時の姿がこれ（⑩-I-B）です。頭の色が、この時（⑩-I-A）はまだ少し白かったんですが、綺麗な銀杏色になってきました（⑩-I-B）。若干、緋はさめてしまったんですが、顔の幅も出て、おたふくのような感じの顔つきになってきました。

この鯉はシミがちよつとあるんですが、まあ、これが同じ鯉であることを証明するチャームポイントでもあります（笑）。これがなければ最高なんです、すごく長持ちしています。横須賀の田中義雄さんが飼っておられますが、泉水で飼ってこれ

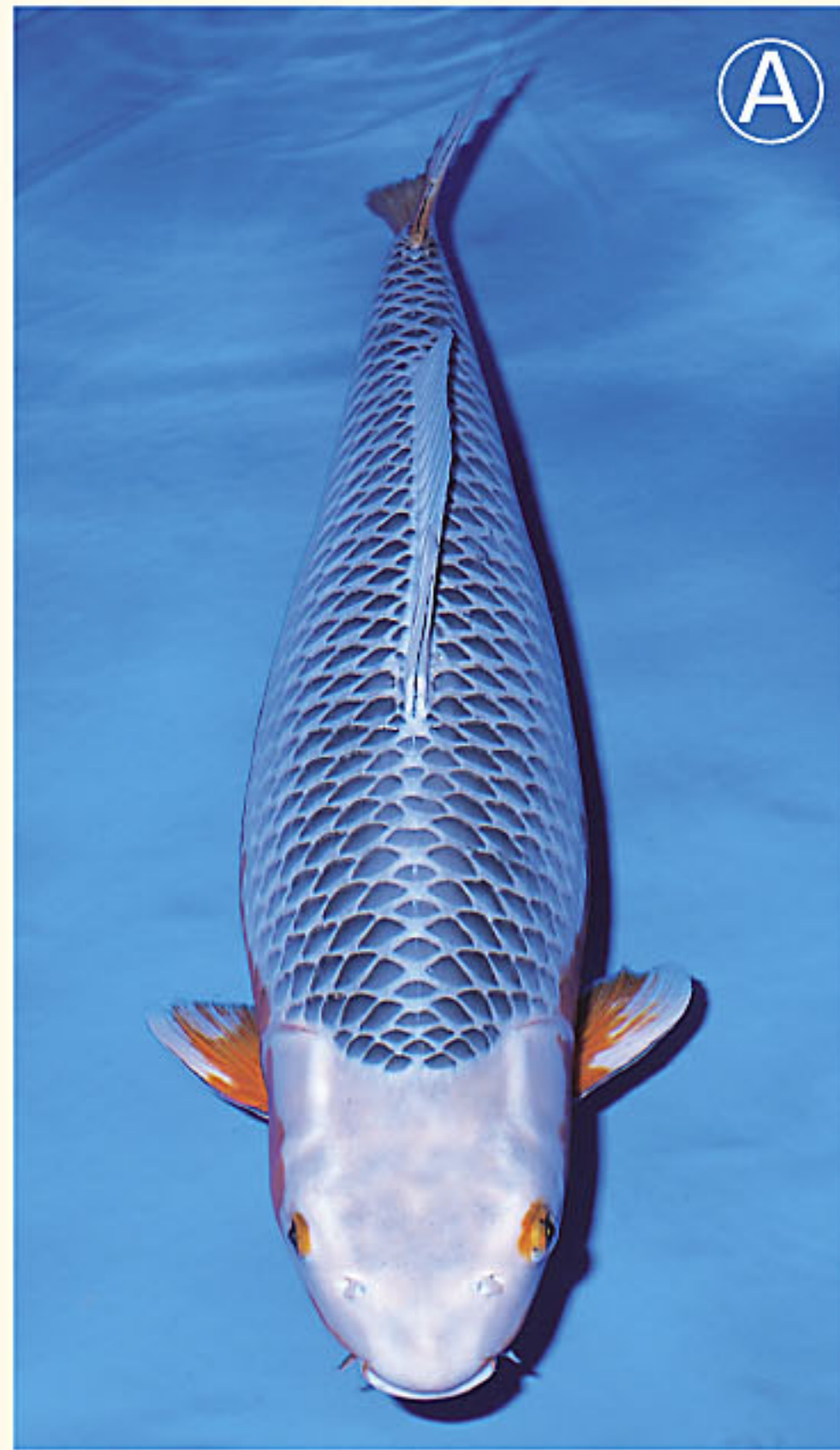


スライドを使って説明する大菊さん

※3 震災後に長岡市三俣野町に住所を移動。



写真⑧／細海浅黄



写真⑨／丸堂浅黄



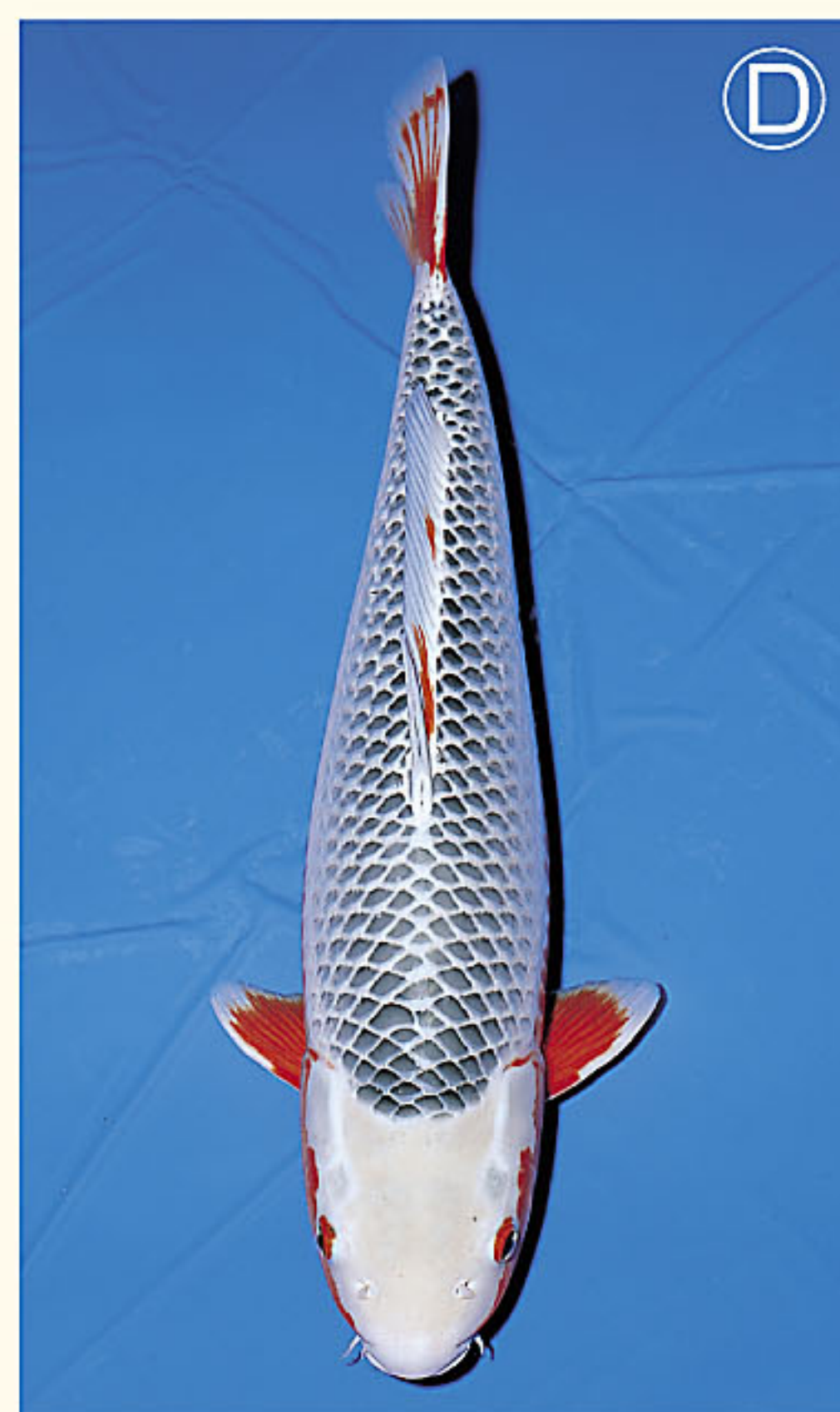
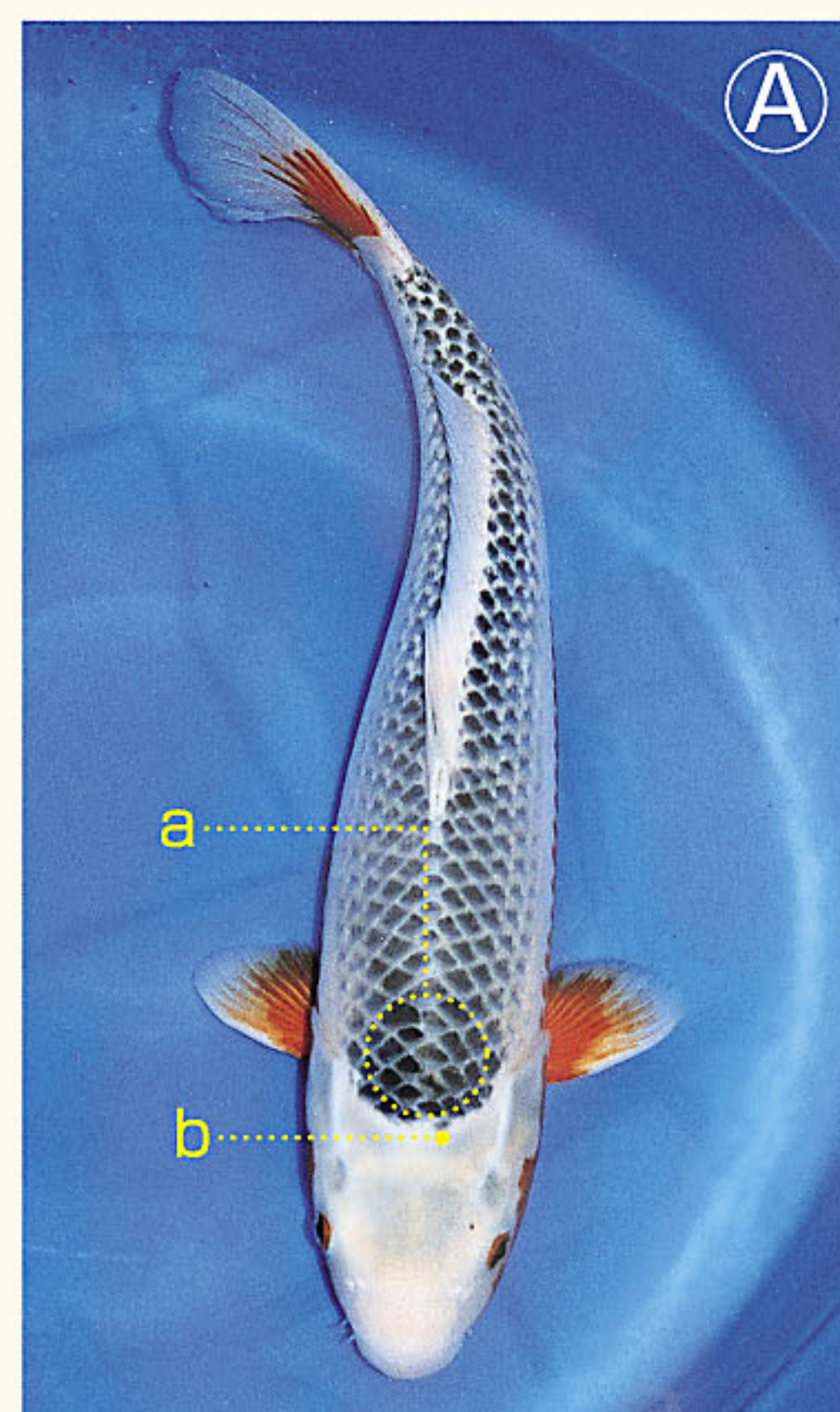
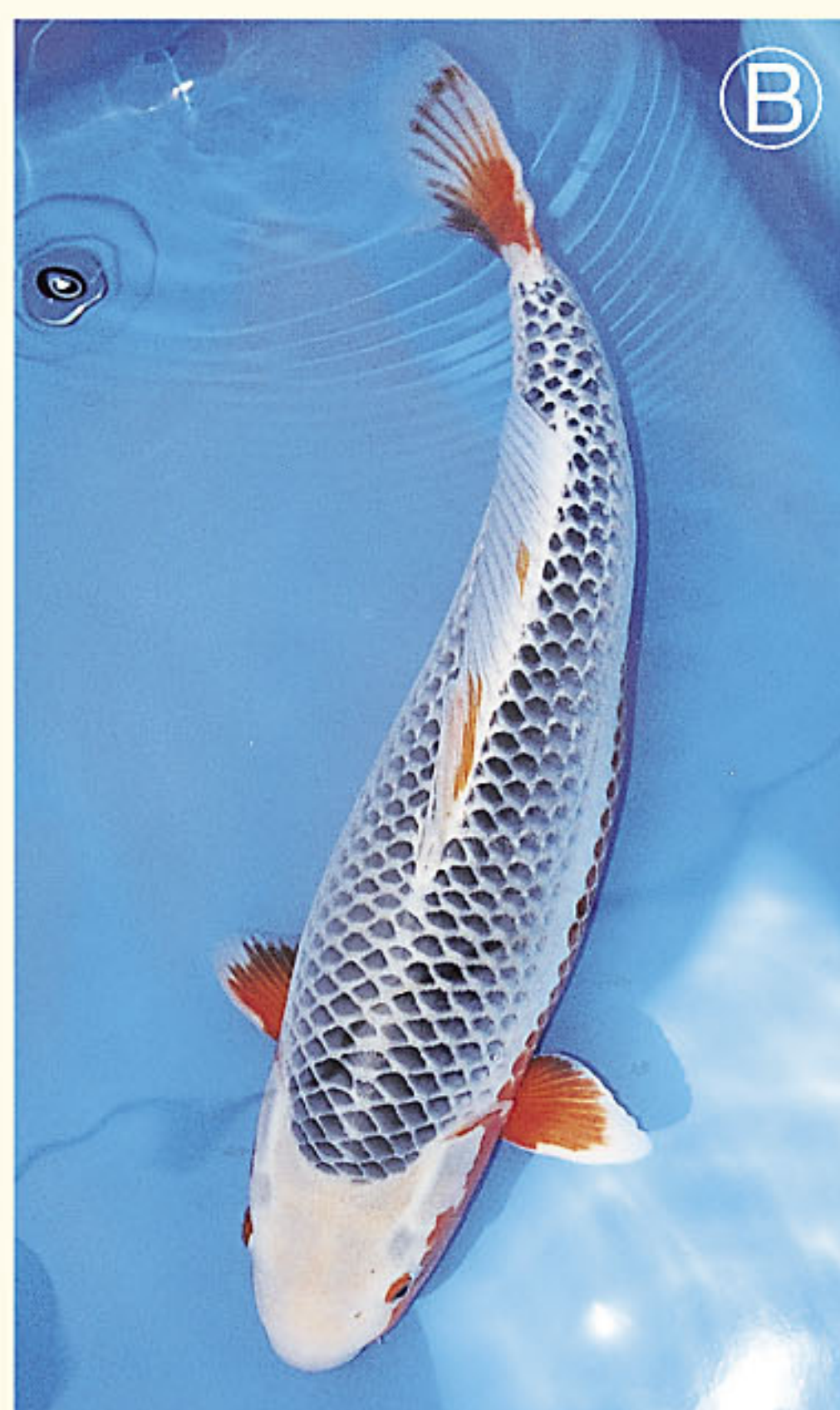
写真⑩／丸堂浅黄

だけ長持ちして、今は80cmを超えています。

次も丸堂さんの浅黄です（写真⑪）。笠原さんが持つておられる鯉ですね。先ほどの鯉とまったく兄弟なんです、もっと早い時の写真で、2才の時の姿です（⑪-A）。

先ほどの鯉と同じなんです、頭の色もこの時点でけっこう綺麗です。ただ、網目はまだはっきりしていません。このあたりに詰まって（a）、ひとつの塊のように見えています。また、ここの鱗（b）が欠点になるんじゃないかと思われる方もいるかもしれませんが、こういう鯉を大きくすると全然わからなくなります。

これが1年経つとこの姿になりました（⑪-B）。鱗が飛び出して見えたのも、ここに肉が入ってくると収まりがいいとか、カチッと決まるんですね。かなり詰まって見えた網目も、肉が付いてくると、白ふちどりも広がってきて、すっきりとしてきました。鯉というのは太った時に、このへんが一番鱗の大きさが大きくなりますので、その間隔が広がってくるとかなり綺麗な浅黄になると思います。



写真⑪／丸堂浅黄

また、太ってきてボリューム感が出てきたので、元々あった腹の底緋も上から見えるような姿になりました。

さらに1年経つとこういう姿になりました(⑪-C)。ちよつと写真が悪いですけど……。さらに網目が濃くなって、仕上がってきました。底の緋も背赤もかなり充実してきました。これが4才の時の姿です。

さらに数カ月経って、これが東京大会に出した時の姿です(⑪-D)。頭も綺麗になってきましたし、網目も綺麗になってきました。この時は65部で優勝しました。

それからまた年を重ねまして、70cmの姿です(⑪-E)。かなりボリュームが付いてきて顔の幅が出てくると、先ほど言った、鱗がちよつと混んでるかなというのが、ちよつといいあんばいになってきました。

さらにもう1年飼ひ込んで、これが今の姿です(⑪-F)。74cmあります。泉水で飼つておられるんですが、すぐく鱗の玉がはつきりとして、覆鱗が出てきましたので、ちよつどいい仕上がり加減になってきています。泉水でここまで狂わずに成長してきました。

〈次号につづく〉